

2027 年度

香川大学大学院創発科学研究科
創発科学専攻
博士前期課程

学 生 募 集 要 項
(工 学 系 領 域)

(推薦選抜)
(一般選抜)
(社会人特別選抜)
(外国人留学生特別選抜)

2026 年 4 月
(2026 年 9 月更新)

香川大学大学院創発科学研究科
〒761-0396 香川県高松市林町 2217 番地 20
TEL (087) 864-2015

創発科学研究科入学者選抜日程

【推薦選抜】

出願期間	2026年5月18日（月）～5月22日（金）
試験実施日	2026年6月20日（土）予備日21日（日）
合格者発表	2026年7月21日（火）
入学手続	2027年3月15日（月）最終日

【第Ⅰ期】

■工学系領域

（一般選抜，一般選抜（女子枠），社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜）

出願期間	2026年7月21日（火）～7月27日（月）
試験実施日	2026年8月20日（木）予備日24日（月）
合格者発表	2026年9月10日（木）
入学手続	2027年3月15日（月）最終日

■教育・人文系領域，法学系領域，経済学系領域

（一般選抜，社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜）

出願期間	2026年8月24日（月）～8月28日（金）
試験実施日	2026年9月25日（金）予備日28日（月）
合格者発表	2026年10月26日（月）
入学手続	2027年3月15日（月）最終日

【第Ⅱ期】

■工学系領域

（一般選抜，社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜）

出願期間	2026年11月24日（火）～11月30日（月）
試験実施日	2026年12月25日（金）予備日28日（月）
合格者発表	2027年1月25日（月）
入学手続	2027年3月15日（月）最終日

■教育・人文系領域，法学系領域，経済学系領域

（一般選抜，社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜）

出願期間	2026年12月14日（月）～12月18日（金）
試験実施日	2027年1月27日（水）予備日28日（木）
合格者発表	2027年2月16日（火）
入学手続	2027年3月15日（月）最終日

【情報系人材特別選抜】

■工学系領域

出願期間	2026年12月1日（火）～1月29日（金）
試験実施日	2027年2月13日（土）予備日14日（日）
合格者発表	2027年3月16日（火）
入学手続	2027年3月27日（土）最終日

入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

香川大学大学院のアドミッション・ポリシー

香川大学大学院では、本学の教育理念に基づき、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成します。そのため、以下のような学力・能力・資質等を備えた向学心旺盛な学生の入学を期待し、多様な入学者選抜を実施します。

入学者に求める学力・能力・資質等

- ① 世界水準の専門性の高い学問を学ぶための専攻分野における基礎的知識・技能・理解力
- ② 創造的で人間性豊かに課題を探究し、論理的にまとめる思考力・判断力・表現力
- ③ 世界水準の専門的研究を実践するための基礎的研究能力・応用力
- ④ 専門分野に対する高い志を持ち、切磋琢磨する探求心・意欲・態度
- ⑤ 複雑で多様な国際社会や地域社会への貢献において、自己が果たすべき役割や倫理観・社会的責任を理解できる能力
- ⑥ 国際感覚を有し、専門分野において社会をリードできる基礎的グローバルマインド

博士前期課程のアドミッション・ポリシー

求める学生像（入学者に求める学力・能力・資質等）

大学院入学までに以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。

- ① **知識・技能・理解力**
異なる分野の知識を組み合わせる研究の基盤である専門分野に関する大学卒業程度の基礎的知識・技能・理解力
- ② **思考力・判断力・表現力**
社会構造の変化などによって引き起こされる複雑で複合的な課題の探究やその解決方法について、多角的な観点から論理的に思考・判断できる力、また、それらを説明できる表現力
- ③ **研究能力・応用力**
異なる分野の知識を組み合わせた専門的な研究を深化させるための研究能力・応用力
- ④ **探求心・意欲・態度**
関連する諸分野や異分野の知識を専門分野の知識に組み合わせながら相互作用させるための方法について、専門的かつ多角的な研究を志向する意欲・態度と創造的な探求心
- ⑤ **倫理観・社会的責任**
社会構造の変化などによって引き起こされる複雑で複合的な課題を見出し、それらの解決を志向する責任感、人間尊重の態度と他者と共感できるコミュニケーション力、他の分野との協働を志向する姿勢及び倫理的態度
- ⑥ **グローバルマインド**
主とする専門分野に加え、関連する諸分野に関する国内外の情報を理解する基本的言語能力と、国際的な視野・多文化理解の視点から、地域や社会における諸課題の発見と解決方法を考えることができる発想力

◇入学者選抜の基本方針

創発科学研究科では、2つの試験方法、受験対象者の組合せにより6つの選抜方法を採用します。

【試験方法】

① 専門分野別試験

筆記試験

系領域（＊）ごとに、各専門分野に関する基礎的知識・技能・理解力を評価します。

なお、系領域によっては筆記試験を課さない場合があります。

口述試験・面接

提出書類（志望理由書、研究計画書等）を参考にしながら、各専門分野に関する基礎的知識・技能・理解力、研究に対する意欲・態度・探求心、研究を遂行するために必要な能力、自分の考えを論理的に構築し伝達する思考力・判断力・表現力、社会的責任を理解できる能力や国際的な視野、多文化理解を評価します。

また、研究計画書を通じて多角的な観点（関連する分野の観点）から自らの研究テーマを論理的に思考・判断できる力や、それらを説明できる表現力を評価します。

＊受験する系領域については、末尾の「系領域について」を参照してください。

② 外国語能力評価

提出された語学能力テストのスコア等により、基本的言語能力について評価します。

【選抜方法】

○推薦選抜

受験対象者は、主として、本学学部学生、他大学学部学生です。入学者の選抜は、専門分野別試験、外国語能力評価を総合して行います。専門分野別試験では、口述試験・面接のみを課します。

○一般選抜

受験対象者は、主として、本学学部学生、他大学学部学生です。入学者の選抜は、専門分野別試験、外国語能力評価を総合して行います。専門分野別試験では、筆記試験及び口述試験・面接を課します。なお、系領域によっては筆記試験を課さない場合があります。

○一般選抜（女子枠）

現行の求める学生像に加え、多様性を受容するだけにとどまらず、それを利活用できる仕組みを具体的に計画立案し、在学中に実行することができる資質・能力を期待します。

入学者には、目的の実現のために、積極的に他者と交わり、自らの価値観を伝えようとする姿勢を求めるとともに、後に続く学生のロールモデルとなることを期待します。

受験対象者は、工学系領域のうち情報関連分野を志望する本学部学生、他大学学部学生の女子です。入学者の選抜は、多様性の意義を自ら考え、かつ、「探求心」を持ち「協働」等の取組により優れた研究を行うことができると認められる者を専門分野別試験、外国語能力評価を総合して行います。専門分野別試験では、口述試験・面接のみを課します。

○社会人特別選抜

受験対象者は、主として、大学を卒業し、社会的経験を積んだ人や現に就業している人です。

入学者の選抜は、専門分野別試験を通して行います。専門分野別試験では、筆記試験及び口述試

験・面接を課します。なお、系領域によっては筆記試験を課さない場合があります。

○外国人留学生特別選抜

受験対象者は、外国の大学を卒業した外国籍の人です。入学者の選抜は、専門分野別試験を通して行います。専門分野別試験では、筆記試験及び口述試験・面接を課します。なお、系領域によっては筆記試験を課さない場合があります。

○情報系人材特別選抜

受験対象者は、工学系領域の情報関連分野を志望する、大学を卒業し、社会的経験を積んだ人や現に就業している人及び外国の大学を卒業した外国籍の人を主とします。

入学者の選抜は、「社会における課題の解決」や「協働」を志向し、優れた研究を行うことができると思われる者を自己推薦書や専門分野別試験の評価を総合して行います。

専門分野別試験では、口述試験・面接のみを課します。

系領域について

本研究科では、教員組織かつ学生組織として以下の4つの系領域を置いています。

教育・人文系領域
法 学 系 領 域
経 済 学 系 領 域
工 学 系 領 域

本研究科の入学者選抜では、系領域ごとに入学者選抜を実施します。出願者は、志望する指導教員の所属する系領域が実施する試験を受験します。そのため、出願に先立って志望する指導教員と連絡を取り、研究分野や研究内容の確認を行ってください。

※ 希望する指導教員の選択や連絡にあたって相談・助言等が必要な場合は、リキャリスキル教学センターまでご相談ください（「8. 指導教員一覧」を参照）。

目次

1. 入学定員	1
2. 出願資格	1
3. 出願手続	6
(1) 出願期間	6
(2) 出願方法	6
(3) 提出書類等	7
4. 選抜方法	10
(1) 学力試験	10
(2) 学力試験の日時及び場所	12
5. 合格者発表	13
6. 入学手続	13
(1) 入学手続期限	13
(2) 入学手続について	13
(3) 入学時に必要な経費	13
7. 注意事項・その他	14
(1) 試験に関する全般的注意事項	14
(2) 創発科学研究科ホームページについて	14
(3) 虚偽記載・不正行為について	15
(4) 日本に在住していない者の出願について	15
(5) 長期履修学生について	15
(6) 障がい等のある入学志願者等との事前相談について	16
(7) 個人情報の取扱いについて	17
(8) 安全保障輸出管理について	17
(9) 問合せ・連絡先	17
8. 指導教員一覧	18
香川大学大学院創発科学研究科博士前期課程の概要	24

注意事項

出願資格審査又は出願の申請（書類提出）の2週間前までに、必ず指導教員として希望する教員に、自らの研究内容等について相談し、承諾を得た上で、書類を作成してください。事前の相談がない場合、原則として書類を受領しません（書類不備のため）。

1. 入学定員

入学定員 145 人（研究科全体）

※工学系領域の入学定員の目安は 128 人です。

なお、128 人の内訳は推薦選抜 85 人、第Ⅰ期 43 人、第Ⅱ期若干人で、社会人特別選抜と外国人留学生特別選抜については第Ⅰ期、第Ⅱ期ともに若干人です。

※教育・人文系領域、法学系領域、経済学系領域の入学定員の目安は 17 人です。

※工学系領域一般選抜の④情報システム・セキュリティ分野、⑤情報社会分野、⑥人工知能・通信ネットワーク分野の 3 分野を併せて、6 人程度の女子枠を設けます（ただし、上記の人数の内数）。

女子枠は、第Ⅰ期のみとし、一般枠との併願を認めます。

2. 出願資格

【推薦選抜】

次の各号のいずれかに該当する者、かつ、学業成績が優秀（2026 年 4 月 1 日時点で G P A が 2.5 程度以上、かつ 100 単位以上を修得済であることを目安とする）で、人物とも優れ、在学している又は卒業した大学（学部、学科、領域、コース）等の長が責任を持って推薦できる者で、合格した場合は本研究科への入学を確約できる者

- (1) 学校教育法第 83 条に定める大学を卒業した者及び 2027 年 3 月 31 日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第 104 条第 7 項の規定により学士の学位を授与された者及び 2027 年 3 月 31 日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者及び 2027 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び 2027 年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (5) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び 2027 年 3 月 31 日までに授与される見込みの者

※本学における G P A の基準は以下のとおりです。

評語（評価）	評点	G P
秀（S）	90 点～100 点	4

優 (A)	80 点～89 点	3
良 (B)	70 点～79 点	2
可 (C)	60 点～69 点	1
不可 (X)	59 点以下	0

G P Aは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下二位未満の端数があるときは、これを四捨五入する。

$$\text{G P A} = (4 \times \text{「秀」単位数} + 3 \times \text{「優」単位数} + 2 \times \text{「良」単位数} + 1 \times \text{「可」単位数} + 0 \times \text{「不可」単位数}) \div \text{履修登録単位数}$$

【一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜】

次の各号のいずれかに該当する者

ただし、社会人特別選抜への出願は、(1)～(11)に該当する者で、かつ、本研究科が定める「社会人としての資格」のA～Cのいずれかに該当する者となります。

社会人としての資格

A 2027年3月末時点において、2年以上の勤務経験を有する者

B 2027年3月末時点において、大学卒業後2年以上経過する者。ただし、他の大学院（研究科）へ進学した者については、修了等によって当該大学院から離籍後2年以上を経過した者

C 勤務先から派遣される者

外国人留学生特別選抜への出願は、(3)、(6)又は(11)に該当する者で、かつ、日本国籍を有しない者となります。

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び2027年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び2027年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2027年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了した者及び2027年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2027年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び2027年3月31日までに授与される見込みの者

- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び2027年3月31日までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）及び2027年3月31日までに指定した者に該当する見込みの者（※1）
- (9) 学校教育法第102条第2項に規定する者（※2）
- (10) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学の大学院に入学した者であって、当該者その後に入学者を本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの（※2）
- (11) 本大学院において個別の入学資格審査により、学校教育法第83条の定める大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2027年3月31日までに22歳に達した者（※3）

※1 旧大学令による大学又は各省庁設置法・組織令、独立行政法人個別法による大学校等の卒業生（修了者）又は卒業（修了）見込みの者を指します。

※2 2027年3月末時点において、大学に3年以上在学した者（外国において学校教育における15年の課程を修了した者及び外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者を含みます。）であって、本大学院の基準により優れた成績と認めたものです。この資格による出願を希望する者は、出願前に書類による個別の入学資格審査を行います。

※3 出願前に書類による個別の入学資格審査を行います。

【一般選抜（女子枠）】

次の各号のいずれかに該当する女子

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者及び2027年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び2027年3月31日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び2027年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了した者及び2027年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び2027年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当す

る学位を授与された者及び2027年3月31日までに授与される見込みの者

- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び2027年3月31日までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）及び2027年3月31日までに指定した者に該当する見込みの者（※1）
- (9) 学校教育法第102条第2項に規定する者（※2）
- (10) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学の大学院に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする本大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの（※2）
- (11) 本大学院において個別の入学資格審査により、学校教育法第83条の定める大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、2027年3月31日までに22歳に達した者（※3）

※1 旧大学令による大学又は各省庁設置法・組織令、独立行政法人個別法による大学校等の卒業生（修了者）又は卒業（修了）見込みの者を指します。

※2 2027年3月末時点において、大学に3年以上在学した者（外国において学校教育における15年の課程を修了した者及び外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者を含みます。）であって、本大学院の基準により優れた成績と認めたものです。この資格による出願を希望する者は、出願前に書類による個別の入学資格審査を行います。

※3 出願前に書類による個別の入学資格審査を行います。

【出願資格審査について】

一般選抜、一般選抜（女子枠）、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜において、出願資格の(9)、(10)、(11)（外国人留学生特別選抜は(11)のみ）により出願しようとする者は、出願に先立って出願資格審査を行いますので、あらかじめ問い合わせてください。出願資格審査の概要は以下のとおりです。

書類は、出願書類を用いて作成してください。出願資格審査に申請する2週間前までに指導教員として希望する教員に、自らの研究内容等について相談し、承諾を得た上で書類を作成してください。事前の相談がない場合、原則として書類を受領しません（書類不備のため）。

教員の連絡先がわからない場合、他大学出身者、社会人で希望する指導教員の選択にあたって、相談・助言が必要な場合は、リキャリスキル教学センターまでご相談ください（本学の学生も利用可能です）。

香川大学リキャリスキル教学センター
教育・学生支援部修学支援課
〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号
TEL (087) 832-1519（平日9時～17時）
E-mail recarin-h@kagawa-u.ac.jp
URL <https://www.recarin.kagawa-u.ac.jp/>

(1) 提出書類等 (表中以外の書類を請求することもあります)

申請書類等	摘 要
出願資格審査申請書	本学所定の様式を使用してください。
研究計画書	本学所定の様式を使用してください。 様式(4)
卒業(修了)証明書	最終学歴のもの
成績証明書	最終学歴のもの ※厳封したものを提出してください。ただし、本学が発行する成績証明書について厳封の必要はありません。 ※偽造防止が施されている証明書用紙を使用しているものは、厳封の必要はありません。
大卒と同等の学力があることを示す書類又は研究業績を示す資料	様式及び提出の有無は任意です。

※成績証明書は、学歴の上で最終の学校の成績証明書を提出してください。出身学校の長(学部長)が作成し厳封したものを提出してください(偽造防止が施されている証明書用紙を使用されているものは、厳封の必要はありません)。編入学などがある場合は、編入学前に所属していた学校等が発行する成績証明書を併せて提出してください。卒業証明書は、出身学校の長(学部長)が作成したものを提出してください。在学中の者は卒業見込証明書を提出してください。

なお、出願時には、出願資格審査申請時に提出した書類は再提出不要です。

※申請書類の作成に英語を用いることが可能です。

※英語・日本以外の証明書類等は、英語又は日本語の訳を添付してください。

(2) 出願資格審査書類の提出期限

第Ⅰ期：2026年 6月26日(金) 17時必着

第Ⅱ期：2026年10月29日(木) 17時必着

- ・「簡易書留」とし、期限内に必着するように郵送してください。
- ・封筒表面に「創発科学研究科創発科学専攻博士前期課程出願資格審査申請書在中」と朱書きしてください。期限を過ぎて到着したものは、受理しません。

なお、期限を過ぎて到着した出願書類については、提出期間最終日の前々日(第Ⅰ期：2026年6月24日(水)、第Ⅱ期：2026年10月27日(火))以前の消印に限り受理します。

(3) 出願資格審査の方法

提出書類により行います。なお、本大学院が必要と認めた場合は、面接を行います。

- (4) 出願資格審査書類の提出先及び問合せ先
香川大学林町地区統合事務センター学務課学務係
〒761-0396 香川県高松市林町 2217 番地 20
TEL (087)864-2015

3. 出願手続

(1) 出願期間

① 推薦選抜

2026 年 5 月 18 日 (月) 9 時～5 月 22 日 (金) 17 時必着

② 第Ⅰ期 (一般選抜, 一般選抜 (女子枠), 社会人特別選抜, 外国人留学生特別選抜)

2026 年 7 月 21 日 (火) 9 時～7 月 27 日 (月) 17 時必着

③ 第Ⅱ期 (一般選抜, 社会人特別選抜, 外国人留学生特別選抜)

2026 年 11 月 24 日 (火) 9 時～11 月 30 日 (月) 17 時必着

(2) 出願方法

○ 郵 送

宛 先 〒761-0396
香川県高松市林町 2217-20
国立大学法人 香川大学
林町地区統合事務センター学務課 学務係

※必ず「簡易書留・速達」で送付してください。

※出願期間を過ぎて到着したものは受理しませんので、十分注意してください。

※提出期間最終日 (推薦: 2026 年 5 月 22 日 (金), 第Ⅰ期: 2026 年 7 月 27 日 (月), 第Ⅱ期: 2026 年 11 月 30 日 (月)) の 17 時までに到着するように発送してください。

なお、期限を過ぎて到着した出願書類については、提出期間最終日の前々日 (推薦: 2026 年 5 月 20 日 (水), 第Ⅰ期: 2026 年 7 月 25 日 (土), 第Ⅱ期: 2026 年 11 月 28 日 (土)) 以前の消印に限り受理します。

○ 持 参

それぞれの提出期間最終日 (推薦: 2026 年 5 月 22 日 (金), 第Ⅰ期: 2026 年 7 月 27 日 (月), 第Ⅱ期: 2026 年 11 月 30 日 (月)) のみ持参での提出を認めます。原則は郵送にて提出してくだ
さい。

提出先 〒761-0396
香川県高松市林町 2217-20
国立大学法人 香川大学
林町地区統合事務センター学務課学務係

※「封筒貼付用あて名シート」をダウンロードして印刷し、角形 2 号封筒に貼り付け、出願書類等を一括して封入してください。

※窓口での受付時間 9 時～17 時です。それ以外の時間帯では受付を行いませんので注意してください。

(3) 提出書類等

いずれの選抜方法の出願者も、下記の書類等を提出してください。なお、本学所定の様式は本研究科のホームページ(「7. 注意事項・その他(2) 創発科学研究科ホームページについて」を参照)からダウンロードしてください。

【全出願者共通】

書 類 名	内 容
入 学 願 書	本学所定の様式(1-1)により作成してください。 必ず「受付金融機関出納印」欄に押印を受けてください。
履 歴 書	本学所定の様式(2)により作成してください。
志 望 理 由 書	【推薦選抜, 一般選抜, 外国人留学生特別選抜】 本学所定の様式(3-1)により作成してください。 【社会人特別選抜】 本学所定の様式(3-2)により作成してください。
研 究 計 画 書	本学所定の様式(4)により作成してください。
成 績 証 明 書	出身大学長(学部長)が作成し <u>厳封</u> したものを提出してください。 ※本学卒業生及び卒業見込みの人は厳封の必要はありません。 ※偽造防止が施されている証明書用紙を使用されているものは、厳封の必要はありません。 ※編入学した場合、編入学前に所属していた機関が発行する成績証明書を併せて提出してください。
卒業(見込)証明書	出身大学長(学部長)が作成したものを提出してください。 在学中の人は卒業見込証明書を提出してください。
学士の学位授与証明書等	出願資格(2)に該当する者は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された証明書を提出してください。 ただし、学士の学位を申請する予定の者は、短期大学長又は高等専門学校長が作成した学位授与申請(予定)証明書を提出してください。
検 定 料	30,000 円 ※入学願書と「振込依頼書(入金票)」及び「領収書」に必要事項を記入の上、下記のそれぞれの期間内に金融機関(ゆうちょ銀行除く)の窓口で振り込んでください。(ATMは利用できません。また、振込手数料は振込人負担です。)その際、 <u>必ず入学願書の「受付金融機関出納印」欄に押印を受けてください。</u> <u>振込受付期間</u> ① 推薦選抜

	2026 年 5 月 11 日（月） 9 時～5 月 22 日（金） ② 第Ⅰ期（一般選抜，一般選抜（女子枠），社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜） 2026 年 7 月 14 日（火） 9 時～7 月 27 日（月） ③ 第Ⅱ期（一般選抜，社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜） 2026 年 11 月 16 日（月） 9 時～11 月 30 日（月） （注）通常，金融機関の窓口取扱時間の窓口取扱時間は平日 15 時までです。土曜日，日曜日及び祝日は休業となりますので注意してください。
受験票・写真票	本学所定の様式により作成してください。
あて名票	本学所定の様式により作成してください。
受験票等送付用封筒	角形 2 号の封筒に「(受験票等送付用) 住所記載シート」，及び，440 円切手を貼付してください。
在留資格を証明するもの （日本国籍を有しない者）	旅券（パスポート）の写しを提出してください。 ただし，現在，日本に在住している場合は，住民票または在留カード（両面）の写しを提出してください。
日本語能力の成績に関する証明書 （日本国籍を有しない者）	日本語による学修・研究を行う志願者で，日本留学試験（日本語）または日本語能力試験を受験している人は，成績に関する証明書を提出してください（受験の時期は問いません）。なお，未受験で提出できない人が選抜において不利になることはありません。

これら出願書類に加え，選択した選抜方法ごとに以下の書類を提出してください。

【推薦選抜】

書 類 名	内 容
推 薦 書	本学所定の様式（6）により，在学中の，または卒業した大学（学部，学科，領域またはコース等）の長が作成し， <u>厳封</u> したものを提出してください。
英語能力に関する 証 明 書	以下のいずれかの英語能力試験の成績に関する証明書（原本）を提出してください。 ・ TOEIC ・ IELTS (Academic Module) ・ TOEFLiBT (Home edition を含む) ※TOEIC は（TOEIC 公開テスト，TOEIC-IP テスト（カレッジ TOEIC，TOEIC Program IP（オンライン）を含む）Listening&Reading Test に限ります。公式認定証（原本）または，デジタル公式認定証を提出してください。 ※IELTS は，「Test Report Form」の原本を提出してください。 ※TOEFLiBT は，以下の 2 つを提出してください。

	(1) 公式スコア「Institutional Score Report」又は「Official Score Report」 (2) 受験者に届く「Test Taker (Examinee) Score Report」 ※上記の各英語能力試験は、学部卒業後に受験したのもも認めます。 ※各英語能力試験の成績に関する証明書（原本）等は、受験票とともに返却します。
--	--

【一般選抜及び一般選抜（女子枠）】

書 類 名	内 容
英語能力に関する 証 明 書	以下のいずれかの英語能力試験の成績に関する証明書（原本）を提出してください。 ・ TOEIC ・ IELTS (Academic Module) ・ TOEFLiBT (Home edition を含む) ※TOEIC は（TOEIC 公開テスト、TOEIC-IP テスト（カレッジTOEIC、TOEIC Program IP（オンライン）を含む）Listening&Reading Test に限ります。公式認定証（原本）または、デジタル公式認定証を提出してください。 ※IELTS は、「Test Report Form」の原本を提出してください。 ※TOEFLiBT は、以下の2つを提出してください。 (1) 公式スコア「Institutional Score Report」または「Official Score Report」 (2) 受験者に届く「Test Taker (Examinee) Score Report」 ※上記の各英語能力試験は、学部卒業後に受験したのもも認めます。 ※各英語能力試験の成績に関する証明書（原本）等は、受験票とともに返却します。

【社会人特別選抜】

書 類 名	内 容
派 遣 書 (社会人としての資格Cに該当する者)	勤務先から派遣される人は、本学所定の様式(7)により、当該所属長が作成したものを提出してください。なお、本人と所属長が同一の場合は、同一の氏名を記載したものでも可とします。

【外国人留学生特別選抜】

推 薦 書	日本国外に在住している人は、大学等が作成した推薦書を提出してください。指導教員等による推薦書も可とします。
-------	---

	外国の大学を卒業し、既に日本国内の日本語学校等に所属している人は、所属する学校・機関が作成した推薦書を提出してください。指導教員等による推薦書も可とします（任意様式、日本語または英語で作成したもの）。
--	--

※入学願書等に記載する氏名と証明書に記載された氏名が改氏名等により異なる場合には、改氏名の事実を証明できる書類（戸籍抄本等（写しでも可）を添付してください）。

※いずれの選抜区分においても、出願書類の作成に英語を用いることが可能です。

※英語・日本語以外の証明書類は、英語又は日本語の訳を添付してください。

4. 選抜方法

（1）学力試験

【推薦選抜】

① 口述試験・面接

出願時に提出された志望理由書、研究計画書等に基づき、専門分野に関する基礎学力、専門知識等について問うとともに、「探求心・意欲・態度」、「倫理観・社会的責任」、「グローバルマインド」（アドミッション・ポリシーを参照）などについて問います。日本語又は英語で行います。

また、研究計画書を通じて多角的な観点（関連する分野の観点）から自らの研究テーマを論理的に思考・判断できる力や、それらを説明できる表現力を評価します。

② 外国語能力評価

指定する英語能力試験のスコアにより評価します。

【一般選抜】

口述試験・面接

提出書類（志望理由書、研究計画書等）に基づき日本語又は英語で行います。

口述試験では、「専門分野（①～③）」に応じた基礎学力、専門知識に関する口述試験（下表）を行うとともに、研究の背景や目的、内容などについて問います（「専門分野」は、志望する指導教員によって決まります。「別添 指導教員一覧」を参照してください）。

また、研究計画書を通じて多角的な観点（関連する分野の観点）から自らの研究テーマを論理的に思考・判断できる力や、それらを説明できる表現力を評価します。

面接では、「探求心・意欲・態度」、「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」（アドミッション・ポリシーを参照）などについて問います。

専門分野	口述試験の内容
①：エクスペリエンスデザイン&アート・数理データサイエンス	・個々の志願者の研究テーマに関連する基礎学力、専門知識
②：建築・都市環境	・個々の志願者の研究テーマに関連する基礎学力、専門知識
③：防災・危機管理	・災害科学、危機対応、リスクマネジメント、地域防災、レジリエンスに関する基礎知識

④：情報システム・セキュリティ	以下の2科目から1科目を選択して解答 ・プログラミング：データ構造とアルゴリズム，C言語，データ分析など ・情報システム：計算機システム，情報セキュリティなど
⑤：情報社会	・個々の志願者の研究テーマに関連する基礎学力，専門知識
⑥：人工知能・通信ネットワーク	・微分積分，線形代数
⑦：機械システム	・工業力学：力と釣り合い，運動学，質点・剛体の動力学，振動 ・材料力学：はり，丸棒のねじり，組み合わせ応力，熱応力 ・制御工学：伝達関数，ブロック線図，周波数応答，安定性と安定判別法，PID制御 ・プログラミング・数値解析：プログラミング（C言語，フローチャート），数値解析の基礎（誤差，数値表現，連立線形方程式，行列演算） ・数学：微分積分，線形代数
⑧：材料物質科学	・構造材料科学：金属，半導体，セラミックス及び高分子などの材料組織，強度，表面特性など ・機能性材料化学：無機材料化学，有機材料化学，生体材料，物理化学など ・光・量子材料科学：量子力学，電磁気学，固体物理など ・数学：微分積分，線形代数
⑨：医用工学	・個々の志願者の研究テーマに関連する基礎学力，専門知識

【一般選抜（女子枠）】

口述試験・面接

提出書類（志望理由書，研究計画書等）に基づき日本語又は英語で行います。

口述試験では，「専門分野（④，⑤，⑥）」に応じた基礎学力，専門知識に関する口述試験（下表）を行うとともに，研究の背景や目的，内容などについて問います（「専門分野」は，志望する指導教員によって決まります。「8. 指導教員一覧」を参照してください）。

また，研究計画書を通じて多角的な観点（関連する分野の観点）から自らの研究テーマを論理的に思考・判断できる力や，それらを説明できる表現力を評価します。

面接では，「探求心・意欲・態度」，「倫理観・社会的責任」，「グローバルマインド」（アドミッション・ポリシーを参照），「多様性」などについて問います。

専門分野	口述試験の内容
④：情報システム・セキュリティ	以下の2科目から1科目を選択して解答 ・プログラミング：データ構造とアルゴリズム，C言語，データ分析など ・情報システム：計算機システム，情報セキュリティなど
⑤：情報社会	・個々の志願者の研究テーマに関連する基礎学力，専門知識

⑥：人工知能・通信ネットワーク	・微分積分，線形代数
-----------------	------------

③ 外国語能力評価

指定する英語能力試験のスコアにより評価します。

【社会人特別選抜】

口述試験・面接

出願時に提出された志望理由書，研究計画書等に基づき日本語又は英語で行います。専門分野に関する基礎学力，専門知識等について問うとともに，「探求心・意欲・態度」，「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」（アドミッション・ポリシーを参照）などについて問います。

また，研究計画書を通じて多角的な観点（関連する分野の観点）から自らの研究テーマを論理的に思考・判断できる力や，それらを説明できる表現力を評価します。

【外国人留学生特別選抜】

口述試験・面接

出願時に提出された志望理由書，研究計画書等に基づき日本語又は英語で行います。専門分野に関する基礎学力，専門知識等について問うとともに，「探求心・意欲・態度」，「倫理観・社会的責任」「グローバルマインド」（アドミッション・ポリシーを参照）などについて問います。

また，研究計画書を通じて多角的な観点（関連する分野の観点）から自らの研究テーマを論理的に思考・判断できる力や，それらを説明できる表現力を評価します。

（２）学力試験の日時及び場所

① 学力試験日

入試種別	実施日	科目等
推薦入試	2026年6月20日（土） 口述試験・面接：9:00～	※志願者が多数の場合は，6月21日（日）にも実施します
第Ⅰ期 一般選抜 一般選抜（女子枠） 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜	2026年8月20日（木） 口述試験・面接：集合時刻，開始時刻はホームページ上で通知します。	※志願者が多数の場合は，8月24日（月）にも実施します
第Ⅱ期 一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜	2026年12月25日（金） 口述試験・面接：集合時刻，開始時刻はホームページ上で通知します。	※志願者が多数の場合は，12月28日（月）にも実施します

② 場 所

香川大学 林町キャンパス（香川県高松市林町 2217-20）

5. 合格者発表

【推薦選抜】

2026 年 7 月 21 日（火） 9 時

【第Ⅰ期（一般選抜，一般選抜（女子枠），社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜）】

2026 年 9 月 10 日（木） 9 時

【第Ⅱ期（一般選抜，社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜）】

2027 年 1 月 25 日（月） 9 時

※本学のホームページ上に合格者の受験番号を掲載します。また，合格者に対して，合格通知書を
送付します。

香川大学 合格者発表ホームページ <https://www.kagawa-u.ac.jp/admission/result/5316/>

※電話による可否の照会には一切応じません。

6. 入学手続

（１）入学手続期限

2027 年 3 月 15 日（月） 必着

※期間内に入学手続を行わなかった場合は，入学を辞退したものとみなします。

（２）入学手続について

2027 年 2 月中に入学手続案内を郵送にて送付します。

（３）入学時に必要な経費

入学料 282,000 円

授業料 267,900 円 〈前期〉

535,800 円 〈年間〉

※2027 年度の予定額であり，入学時及び在学中に学生納付金が改定された場合には，改定時から
新たな納付金額が適用されます。

納付金に関する注意事項

- I. 前期分の授業料については、2027 年 4 月 1 日から 2027 年 5 月 31 日までの間に納付してください。希望により、前期分の納付の際に後期分も合わせて納付することができます。
- II. 払込済の入学料は、次の場合を除き、返還しません。
 - ① 入学手続きを行わなかった場合
 - ② 入学料を誤って二重に払い込んだ場合
- III. 入学手続きを完了した後、何らかの事情で入学することができなくなった場合は、速やかに、入学辞退の手続きを行ってください。所定の入学辞退の手続きを行わない場合は、2027 年 4 月 1 日付で入学したこととなり、授業料の債務（前期分）が発生しますのでご注意ください。

7. 注意事項・その他

(1) 試験に関する全般的注意事項

- ・試験の集合時刻は、本研究科ホームページで周知しますので、必ず確認してください。
 - ・事情により、試験等に変更がある場合があります。その際は、本研究科ホームページでお知らせしますので、最新の情報を確認するようにしてください。
 - ・試験当日は、必ず受験票を持参してください。
 - ・集合時刻までに、各自試験場に集合してください。受験者集合時刻から 15 分を超えて遅刻した場合は、受験できません。
 - ・控室での待機時間が長くなる場合があります。待機中は控室から退出できません。
 - ・払込済の検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。
 - ① 検定料を払い込んだが本学に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合
 - ② 検定料を誤って二重に払い込んだ場合
- 上記①又は②に該当される方は、香川大学入試課(087)832-1182 へご連絡ください。

(2) 創発科学研究科ホームページについて

本研究科ホームページは以下のとおりです。

https://www.kagawa-u.ac.jp/kagawa-u_sce/



(3) 虚偽記載・不正行為について

出願書類等に虚偽があった場合、又は入学試験において不正行為をしたことが判明した場合は、入学決定後であっても許可を取り消すことがあります。

(4) 日本に在住していない者の出願について

日本に在住していない人は、出願前に必ず連絡してください（「(9) 問合せ・連絡先」参照）。

(5) 長期履修学生について

長期履修学生とは、職業等を有している等の事情で、通常の学生よりも単位取得のための学修時間や研究指導を受ける時間が制限されるため、標準修業年限（2年）を超えて在学しなければ課程を修了できないと考える者に、申請に基づき審査し、許可した上で、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することが認められた者です。なお、長期履修学生のためのカリキュラムは、特別に用意することはありません。

長期履修学生は、修学年数に関係なく、標準修業年限（2年）分の授業料で修学することができます。

1. 長期履修学生の対象者

長期履修学生として申請することができる者は、創発科学研究科の入学者選抜試験合格者で次のいずれかに該当する者としてします。

- (1) 官公庁、企業等に在職している者（給与の支給を受け、職務を免除されている者を除く。）
又は、自ら事業を行っている者等フルタイムの職業に就いている者（有職者であることにより社会人特別選抜に出願し、合格した者で、入学後も職業を有している者を含む。）
- (2) 家事、育児、親族の介護等上記（1）に準ずる負担により、修学に重大な影響がある者
- (3) その他やむを得ない事由により、修学に重大な影響があると本研究科において認めた者

2. 申請の手続

長期履修学生を希望する者は、指導教員の下承を得た上で、次の書類を2月末日までに提出してください。（※入学後、在学中にも申請できます。）

- (1) 長期履修学生申請書（別紙様式1）
- (2) 長期履修学生履修期間（申請）理由書（別紙様式2）
- (3) 長期履修計画書（別紙様式3）
- (4) 長期履修が必要であることを証明する書類等（在職証明書又は在職が証明できる書類等）

3. 審査結果の通知

申請書類に基づき審査のうえ、長期履修学生として認めるか否かを決定し、3月末日までに通知します。

4. 長期履修の期間

長期履修学生の履修期間は、3年から4年までです。

なお、課程の修了月は3月となっています。

※ 標準修業年限（2年）の2倍（4年）を超えて在学することはできません。

5. 授業料の年額

長期履修学生の授業料年額は、標準修業年限分の授業料の年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を在学期間の年数で除した額となります。ただし、在学中に授業料が改定された場合には、改定時から新授業料が適用されます。

【算出例1】

長期履修学生申請者が在学期間3年と認定された場合

$$\begin{array}{rcll} 535,800 \text{ 円} & \times & 2 \text{ 年} & \div & 3 \text{ 年} \\ (\text{授業料年額 (予定)}) & & (\text{標準修業年限}) & & (\text{認定された在学期間}) \\ = & & 357,200 \text{ 円} & & \end{array}$$

(長期履修学生の授業料年額〈予定〉)

6. 長期履修期間の短縮又は延長

長期履修学生で特別な事情がある場合は、在学する課程において、1回に限り履修期間の短縮又は延長をすることができます。

(1) 長期履修期間の短縮

長期履修期間の1年短縮を希望する者は、長期履修期間が終了する日の2年前の学年における、2月末日、長期履修期間の2年短縮を希望する者は、3年前の学年における、2月末日までに「長期履修学生履修期間変更(短縮)願」を提出し、承認を得なければなりません。

短縮を認めることのできる履修期間は、1年短縮については4年から3年又は3年から2年、2年短縮については4年から2年の場合です。

また、長期履修期間の短縮が許可された場合は、標準修業年限(2年)分の授業料からすでに納付済みの授業料を差し引いた分を短縮期間に応じて新たに算出し、納付することになります。

(2) 長期履修期間の延長

長期履修期間の延長を希望する者は長期履修期間の終了する日の1年前の学年の2月末日までに、「長期履修学生履修期間変更(延長)願」を提出し、承認を得なければなりません。

延長を認めることのできる履修期間は、3年から4年の場合です。

なお、長期履修期間は4年を超えることができません。

また、長期履修期間延長後の授業料は、標準修業年限(2年)分の授業料からすでに納付済みの授業料を差し引いた分を延長期間に応じて新たに算出し、納付することになります。

(6) 障がい等のある入学志願者等との事前相談について

障がいがある等、受験及び修学上特別な配慮を必要とする可能性がある人は、出願前に、あらかじめお問い合わせください。なお、相談の内容によっては対応に時間を要することもありますので、出願前のできるだけ早い時期に、相談してください。

① 相談の方法

申請書(様式自由、健康診断書等必要書類添付)を提出することとし、必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談等を行います。

② 連絡先

香川大学林町地区統合事務センター学務課学務係

〒761-0396 香川県高松市林町 2217 番地 20

TEL (087)864-2015

特に、次表に相当する障がい等がある人は、申出がなかった場合、受験の際、障がい等の状態に応じた対応ができなくなる場合もありますので十分注意してください。次表から判断できない場合は、お問合せください。

区分	障がい等の程度
視覚障がい	両眼の視力がおおむね 0.3 未満のもの又は視力以外の視機能障がいが高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴覚障がい	両耳の聴力レベルがおおむね 60 デシベル以上のもののうち、補聴器等の使用によっても通常の話を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの

肢体不自由	・肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの ・肢体不自由の状態が上記に掲げる程度に達しないもののうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病弱	・慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの
その他	上記以外で、受験上、修学上特別の配慮を必要とするもの （例）発達障害（ADHD、自閉症等）、パニック障がい、頻尿

（７）個人情報の取扱いについて

出願書類に記載された個人情報（氏名、生年月日、その他の個人情報）は、入学人選抜、合格通知及び入学手続きを行うために利用します。また、同個人情報は、合格者の入学後の教務関係（学籍、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、奨学金申請等）、授業料及び教育研究活動の支援と本学の発展のための活動に関する業務を行う目的をもって本学が管理します。

入学者選抜における個人成績は、入学者選抜の他、調査・研究（入試の改善や志願動向の調査・分析、各種統計資料作成）及び合格者の入学後の教務・学生支援関係業務にのみ使用し、本学の関係教職員以外への提供は行いません。また、調査・研究結果の発表に際しては個人が特定できないように処理します。

（８）安全保障輸出管理について

香川大学では、「外国為替及び外国貿易法」にもとづき、「国立大学法人香川大学安全保障輸出管理規程」を定めて、物品の輸出、技術の提供、人材の交流の観点から外国人留学生の受入れに関し、厳格な審査を実施しています。規制されている事項に該当する場合は、希望する研究活動に制限がかかる場合や、教育が受けられない場合があるので注意してください。

（９）問合せ・連絡先

国立大学法人 香川大学 林町地区統合事務センター学務課 学務係
 〒761-0396
 香川県高松市林町 2217-20
 TEL 087-864-2015（平日 9 時～17 時） E-mail junbijim-h@kagawa-u.ac.jp

8. 指導教員一覧

出願を希望する人は、指導教員として希望する教員に、必ず書類提出の2週間前までに、自らの研究内容等について相談し、承諾を得た上で書類を作成してください。事前の相談がない場合、原則として書類を受領しません（書類不備のため）。教員の連絡先が分からない場合、他大学出身者、社会人で、希望する指導教員の選択にあたって相談・助言等が必要な場合は、リカリスキル教学センターまでご相談ください（本学の学生も利用可能です）。

なお、出願時に希望する指導教員は、暫定であり、指導教員の確定は、入学後となります。

国立大学法人 香川大学リカリスキル教学センター，教育・学生支援部修学支援課

〒760-8521

香川県高松市幸町1番1号

TEL 087-832-1519（平日9時～17時）

E-mail recarin-h@kagawa-u.ac.jp

URL <https://www.recarin.kagawa-u.ac.jp/>

工学系領域

入学願書の「受験する系領域」欄には、志望する指導教員に対応する専門分野の番号（①～⑨）を記入してください。

①：エクスペリエンスデザイン&アート・数理データサイエンス

氏名	研究テーマ
井藤 隆志	プロダクトデザイン，伝統工芸・3D 技術に関する研究
勝又 暢久	宇宙構造物工学，航空宇宙工学，システムエンジニアリングに関する研究
後藤田 中	身体知を対象としたマルチメディアとネットワークコミュニティを用いた教育システムのデザインと開発研究
小林 敬和	生産・物流計画と情報の流れの適正化，及び生産・物流計画支援システムのデザイン研究
林 敏浩	マルチメディア・情報ネットワーク技術を応答した高度教育システムの開発研究
山中 隆史	対話プロセスのデザインに関する研究
大崎 章弘	科学コミュニケーションおよび理科・STEAM 学習のための教具・教材の研究
北村 尊義	UX のためのデザインとその評価手法に関する研究
柴田 悠基	現代美術，アートプロジェクト，SF プロトタイピングに関する研究
竹内 謙善	数値シミュレーションに基づく構造最適設計
松井 哲也	ヒューマンエージェントインタラクション
南 政宏	地域デザインに関する研究
吉村 英徳	加工技術，加工シミュレーション技術に関する研究
李 セロン	感性工学におけるパターンマイニングに関する研究
松岡 慧	色彩&テクスチャ，VR/AR/MR，デザインサイエンスに関する研究

②：建築・都市環境

氏名	研究テーマ
石塚 正秀	河川工学，水文学，水環境，乾燥地・黄砂に関する研究
岡崎 慎一郎	コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントに関する研究
末永 慶寛	水域環境評価システムの開発に関する研究
宮本 慎宏	歴史的建造物の耐震性能に関する研究
山中 稔	地盤環境工学と地盤災害に関する研究
吉田 秀典	汚染土壌や汚染水の浄化に関する研究／人工知能や ICT デバイスを援用したレジリエンスに関する研究
荒木 裕行	地盤および土構造物の常時・地震時安定性に関する研究
釜床 美也子	木造構法，歴史的建造物の保存
鈴木 達也	建築・都市・地域における人間活動の定量的評価
玉置 哲也	自然資源利用と都市環境の持続可能性に関する研究

中島 美登子	高齢者・障がい者の居住空間に関する研究
長谷川 裕修	交通安全、交通行動、条件不利地域における国土管理の方向性に関する研究
小宅 由似	植生遷移を利用した緑地管理に関する研究
山本 高広	建築設備および建物での IoT 活用

③：防災・危機管理

氏名	研究テーマ
井面 仁志	防災危機管理教育に関する研究／システム信頼性・危機管理へのソフトコンピューティングの応用に関する研究
梶谷 義雄	都市・地域の災害シミュレーションとリスクマネジメントに関する研究
野々村 敦子	GIS を用いた環境・防災情報解析に関する研究
高橋 亨輔	レジリエンス工学に基づく応用システムの研究開発
地元 孝輔	地震工学に関する研究

④：情報システム・セキュリティ

氏名	研究テーマ
安藤 一秋	ことばをコンピュータで処理する基礎技術とその応用に関する研究
亀井 仁志	大規模データインフラのデータ保管及びデータ保護に関する研究
喜田 弘司	機械学習技術のサイバーセキュリティへの応用に関する研究
米谷 雄介	学習／地域コミュニティにおけるナレッジマネジメントシステムの構築に関する研究
高木 智彦	体系的なソフトウェア開発手法および支援環境に関する研究
八重樫 理人	ソフトウェア/システムデザイン法とその応用に関する研究
山田 哲	情報サービスの戦略・ビジネスモデル・プロセス・マネジメントに関する研究
小川 祐紀雄	情報ネットワークシステムのアーキテクチャに関する研究
香川 考司	プログラム言語処理系及びネットワークを利用したプログラミング支援環境に関する研究
児島 雄志	数理最適化問題と機械学習の基礎および応用に関する研究
高橋 亨輔	インテリジェントコンピューティングの応用に関する研究
橋本 健二	制約式の解の計数・列挙を行う技術とその応用に関する研究
橋本 正樹	悪性サイトの自動検出、サイバー攻撃の分析、セキュリティ運用の効率化・自動化
福森 聡	バーチャルリアリティを基盤としたアプリケーション開発と知覚心理学研究に関する研究

⑤：情報社会

氏名	研究テーマ
安藤 一秋	言語情報アクセス技術に関する研究
岡崎 慎一郎	コンクリート構造物のライフサイクルマネジメントに関する研究
北村 尊義	UX のためのデザインとその評価手法に関する研究
喜田 弘司	データサイエンスによるセキュリティ強化に関する研究
後藤田 中	身体知を対象としたマルチメディアとネットワークコミュニティを用いた教育システムのデザインと開発研究
米谷 雄介	学習／地域コミュニティにおけるナレッジマネジメントシステムの構築に関する研究
佐藤 敬子	人間の感覚知覚情報処理，色覚メカニズム，色覚バリアフリーに関する研究
高木 智彦	ユーザ要求を満たすためのソフトウェア設計・検証技術に関する研究
高橋 亨輔	インテリジェントコンピューティングの応用に関する研究
玉置 哲也	自然資源利用と都市環境の持続可能性に関する研究
林 純一郎	コンピュータビジョンによる環境認識及び人間支援に関する研究
林 敏浩	マルチメディア・情報ネットワーク技術を応答した高度教育システムの開発研究
八重樫 理人	観光支援システム，教育支援システムに関する研究
山田 哲	情報サービスの戦略・ビジネスモデル・プロセス・マネジメントに関する研究
吉田 秀典	人工知能や ICT デバイスを援用したレジリエンスに関する研究

⑥：人工知能・通信ネットワーク

氏名	研究テーマ
石井 光治	遠隔機器制御などの無線応用システムに関する研究
北島 博之	心臓数値モデルにおける不整脈発生メカニズムに関する研究
丹治 裕一	科学計算のためのアルゴリズムとハードウェア実現
藤本 憲市	医用・放射線分野における工学的諸問題と最適アプローチの探求
丸 浩一	導波路型光デバイスと光通信システム・センシングシステムへの応用に関する研究
小玉 崇宏	光無線・光ファイバ通信におけるフォトニック信号処理に関する研究
松下 春奈	ソフトコンピューティング技術の設計と非線形問題への応用に関する研究
武田 健太郎	知能情報システムとハードウェア設計に関する研究

⑦：機械システム

氏名	研究テーマ
石原 秀則	ロボットの知能化及び高機能化に関する研究
奥村 幸彦	脱炭素に向けたガスエンジンおよびバーナー開発 スーパーコンピューターによる熱流体シミュレーション

佐々木 大輔	空気圧ソフトアクチュエータを使用した人間親和ロボットの開発
鈴木 桂輔	VR 技術を活用したヒューマンマシンインタフェースに関する研究
高尾 英邦	皮膚を凌駕するセンシング機能を実現するナノテクノロジー触覚センサの研究
高橋 悟	生物観測・消化管計測のためのマシンビジョンに関する研究
寺尾 京平	バイオナノテクノロジーによる細胞・生体分子の操作と解析に関する研究
前山 祥一	自律移動ロボットの要素技術とその探査・農業等への応用に関する研究
井上 恒	身体運動のバイオメカニクスと運動支援システム
大宮 祐也	機械要素技術の開発とナノマテリアルなどを用いたトライボロジーに関する研究
小水内 俊介	人型ロボットの運動制御, 空中映像との力触覚インタラクション, 看護支援技術
佐藤 敬子	人間の感覚知覚情報処理, 色覚メカニズム, 色覚バリアフリーに関する研究
林 純一郎	コンピュータビジョンによる環境認識及び人間支援に関する研究
土谷 圭央	計測システムと人間拡張技術に関する研究
堤 成可	模擬環境と計測による道路交通参加者の行動理解と予防安全に関する研究

⑧：材料物質科学

氏名	研究テーマ
石井 知彦	磁性有機・無機複合材料の電子状態と材料設計に関する研究
上村 忍	有機分子・高分子からなる機能性二次元材料に関する研究
楠瀬 尚史	多機能なセラミックス複合材料の開発に関する研究
高橋 恵輔	ナノスケール反応機構から社会インフラ応用までを対象とした, 持続可能・高耐久セメント系材料の研究
田中 康弘	原子レベル微細組織評価を用いた構造材料の性能向上, 機能性材料の開発に関する研究
鶴町 徳昭	光と物質の相互作用に関する研究
宮川 勇人	光・電子デバイス材料の作製と評価に関する研究
砂山 博文	機能性分子認識高分子材料の創製に関する研究
田原 圭志朗	有機分子や金属錯体を用いた有機エレクトロニクス材料の開発に関する研究
原 光生	液晶性高分子材料の開発と表面機能化に関する研究
平山 恭介	マルチモーダル・マルチスケールイメージング技術による構造材料の組織および特性評価に関する研究
堀井 洋司	無機-有機ハイブリッド分子を基盤とする新奇多機能材料の創出
松田 伸也	構造用セラミックス・繊維強化複合材料の変形, 損傷, 破壊機構と強度信頼性に関する研究
小野 貴史	光集積回路を基盤とした量子情報処理に関する研究

⑨：医用工学

氏名	研究テーマ
井面 仁志	防災危機管理教育に関する研究／システム信頼性・危機管理へのソフトコンピューティングの応用に関する研究
北島 博之	心臓数値モデルにおける不整脈発生メカニズムに関する研究
鈴木 桂輔	VR 技術を用いた自律神経活動の最適化
高橋 悟	生物観測・消化管計測のためのマシンビジョンに関する研究
前山 祥一	自律移動ロボットの要素技術とその探査・農業等への応用に関する研究
井上 恒	身体運動のバイオメカニクスと運動支援システム
小水内 俊介	人型ロボットの運動制御，空中映像との力触覚インタラクション，看護支援技術
佐藤 敬子	人間の感覚知覚情報処理，色覚メカニズム，色覚バリアフリーに関する研究

香川大学大学院創発科学研究科博士前期課程の概要

1. 創発科学研究科博士前期課程の理念と目的

本研究科では、社会構造が急激に変化する中、複合的で複雑な、また予見不能な変化にも柔軟に対応しながら、新たな社会課題を発見し、解決に向けて取り組むことで、持続可能な社会の実現に貢献することを理念としています。

また、専門領域に軸足を置きながら複数の異なる分野にも造詣のある人材の育成を図るため、ユニット制と研究科共通科目を教育手法の基礎とし、様々な学問分野の学習過程を通して知識を柔軟に組み合わせることにより、持続可能な社会の実現に向けて、複雑化する社会の諸課題を解決できる人材を育成します。本研究科では「創発科学」を以下のように定義しています。

**既存の学問分野を軸に、各分野の知見を組み合わせながら効果的に相互作用させることによって、各分野の総和にとどまらない画期的な知や解決策を導出することを
目指す学習や研究活動の規範**

専門分野での具体的な課題解決方法をしっかりとデザインでき、かつ複数の学問分野から得られた多様な知識や技術を協調的に組み合わせることのできる能力を有し、未来における新産業の創造や地域が直面する新課題の解決に貢献できる人材を輩出することを目的としています。

また、創発科学の視点に立って、大学を核とした地域において、さまざまな主体（住民、企業、官公庁、NPO/NGO 等）による柔軟なネットワークを構築し、地域社会の望ましい産業や新たな地域社会の姿を築くことを目的としています。

学位について

修士（教育学）（英語名：Master of Education）

修士（法学）（英語名：Master of Law）

修士（経済学）（英語名：Master of Economics）

修士（工学）（英語名：Master of Engineering）

修士（危機管理学）（英語名：Master of Crisis and Risk Management）

修士（学術）（英語名：Master of Arts and Sciences）

のいずれかが、授与されます。

2. 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

創発科学研究科は、本研究科の学生としてふさわしい専門的な能力・態度や創発科学の素養を身につけた人材を養成するために、ディプロマ・ポリシー（DP）に示した4つの構成要素（①専門知識・理解、②研究能力・応用力、③倫理観・社会的責任、④グローバルマインド）で示した項目は、以下のような教育課程を編成し達成します。

創発科学研究科の教育課程は、すべての学生に本研究科の教育理念にある創発科学の考え方や素養を養うための共通科目を主に1年次で履修する授業科目として配置します。併行して、教育・人文、法学、経済学、工学の各専門分野の研究に必要な高度な専門知識や技能等を養う専門科目（基幹科目と応用展開科目）を授業科目として配置します。さらに、研究能力の養成のために、特別研究を授業科目として配置します。

①特定のテーマで紐づいた専門科目群をユニットとして多数用意することで、学生が希望する分野の履修や研究に必要な知識を学びやすい環境を提供します。主ユニットに配置した専門科目（基幹科目と応用展開科目）による専門知識の深化と関連科目の履修による学びの幅を担保します。これにより、専門分野を体系的に学ぶことで専門能力を養うとともに、各自の探求するテーマに応じた関連科目を効果的に組み合わせることで俯瞰力を養います。

②分野を横断して、異なる分野の知を学び結合をはかる学際的思考力を養成するために、研究科共通科目「創発の方法」等を配置します。これにより、創発科学を志向した学びと研究のための方法論を学び、分野を横断して知の結合をはかる上での基本的な能力や態度を養います。

③研究能力・応用力を養うために「特別研究Ⅰ・Ⅱ」を配置します。実践的な研究能力を養成するために、主指導教員の指導のもとで、研究を遂行する上で必要となる能力とその応用力、研究倫理、コミュニケーション能力等を身につけます。

特別研究では、研究倫理、アカデミック・ライティング、研究計画の作成手順や研究方法、国内外の文献（先行研究）の収集・整理の方法、データの収集・分析方法や分析結果の整理と考察、研究成果の取りまとめ方、学会報告・学会誌等への投稿等の方法などについての指導を受けます。専門分野によっては、これらに加えて、フィールドワークや各種調査、モデルの構築、プロトタイプ の作成、実験、実習、作品の制作・発表等を行います。

④思考力を養成する基礎として、研究科共通科目に「創発の基礎（D）」、「創発の基礎（R）」、「創発の発展」、「創発の実践」を配置します。これにより、複合的、複雑な社会課題に対しても分野を横断しながら前例にとらわれることなく解決策を考え抜くことの必要性を学び、創発科学を志向する上での思考力や探求心を養います。また、研究に必要な情報関連分野の概念や理論を理解するために、「創発の基礎（I）」を配置します。

⑤社会構造の変化の理解と高い倫理観の形成をはかるため、研究科共通科目「研究倫理」，「創発の基礎（R）」，「創発の基礎（I）」，「創発の発展」，「ELSI」を配置します。これにより、社会構造の変化に柔軟に対応しながら、高い倫理観を持って課題解決のための諸活動に携われるような能力や態度を養います。

⑥地域マネジメント研究科（ビジネススクール）と連携した「創発の方法」，「創発の実践」を配置し、アントレプレナーの素養と地域課題発掘と実践知の学びの機会を確保します。これにより、社会・地域課題の把握や研究成果の社会での展開の仕方（社会の中での実装）にかかわる能力や態度を養います。

⑦多文化を理解し、地域からグローバルに及ぶ多文化共生の課題を学ぶ「創発の発展」，「創発の視点」，「SDGs」，「ELSI」，「フィールドスタディ」を配置します。これにより，地域から地球規模に及ぶ範囲で発生している諸課題を理解し，自らの研究テーマと関連づけてそれらに対処する上での基本的な能力や態度を養います。

以上の学習成果の評価は，シラバスに記載している方法によって，各授業科目の到達目標の達成度で評価します。

＜研究計画の遂行に対する指導及び学位論文の評価＞

研究指導は，本研究科が作成する「研究指導計画」に基づいて実施します。「研究指導計画」は学位取得までの流れを定めています。また，分野の特性に配慮し，系領域ごとに定めています。

本研究科の研究指導は，学生の専攻分野の研究を指導するため，学生ごとに指導教員を置き，学生は，1名の主指導教員と2名以上の副指導教員による複数の教員による研究指導の下で修士論文を作成します。

修士論文の研究指導には，指導教員及び副指導教員はもとより，研究科として実施する「中間報告会」，「修士論文発表会」などを通じて，研究科の複数の教員が関与していきます。

修士論文では，本研究科の教授会で選出された主指導教員を含む3名以上の審査委員（本研究科の教授会が必要と認める場合は，他の大学院又は研究所等の教員等）による審査を行います。また，研究成果の内容や当該研究分野に関する高度な専門知識，関連する研究分野に関する知識等を問う最終試験を行います。審査にあたっては，本研究科が定める学位論文審査基準に基づき審査を行います。最終試験は，筆答又は口答で行われます。審査及び最終試験が修士論文発表会を兼ねる場合もあります。

3. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学大学院創発科学研究科（修士課程）では，その教育理念に基づき，以下に示す専門的な能力・態度を身につけた者に修士の学位を授与する。

①専門知識・理解

- ・主とする専門領域の高度な専門知識を修得するとともに異なる分野の知識と効果的に組み合わせる結合力を修得している。
- ・自らが用いた科学間，異分野間のコミュニケーションについてその限界や課題を説明できる。

②研究能力・応用力

- ・分野を横断して複合的，複雑，予見不能な社会課題に対する解決策を考え抜く思考力・研究を遂行する能力を修得している。

③倫理観・社会的責任

- ・新しい社会構造の変化（Society5.0，データ駆動型社会等）に柔軟に対応し，AI，IoT，オープンデータ等を活用しながら，高い倫理観を持って未来のあるべき社会を構想できる力を

有している。また、それらを他者に対して説明することができる。

- ・自らが取組む課題を社会・制度といった多様な観点・文脈から捉えなおし、その意義や限界を説明できる。

④グローバルマインド

- ・異文化理解の重要性を認識し、地域から地球規模に及ぶ多文化共生の諸課題に対応可能な能力を有している。
- ・自らの研究テーマを、グローバルなスケールに位置づけ、文化・社会といった観点・文脈で捉えなおすことができる。